

使用機器：自動血球計数CRP測定装置
Microsemi LC-667 CRP
測定項目：CBC、CRP
病床数：205
検査件数：150-200人/日

済生会長崎病院
検査部 北川いづみ技師長



小さなお子さんの採血から血液検査・結果報告までの 一連の作業を中央検査室で全て実施

Q1：中央検査室には自動血球計数測定装置と生化学測定装置がありますが、小さなお子さんの場合は、
どのように検査されていますか？

A1：ウイルス感染か細菌感染かを鑑別し、抗菌薬を投与するかどうかの判断をするために、CBCとCRPを測定しています。大型の自動血球計数測定装置の場合少なくとも2mLの採血量が必要で、更にCRP測定用に2mLの採血が必要です。小さいお子さんには負担が大きくなります。そのため、少ない採血量で検査ができる小型の全血検査装置を使用しています。CBCとCRPを同時に測定できれば、少ない採血量ですむので、小さなお子さんの負担を軽減することができます。測定結果を得られるまでの時間が短いほうが、外来での患者さんの待ち時間短縮につながります。

全血検査のメリット

全血の検査

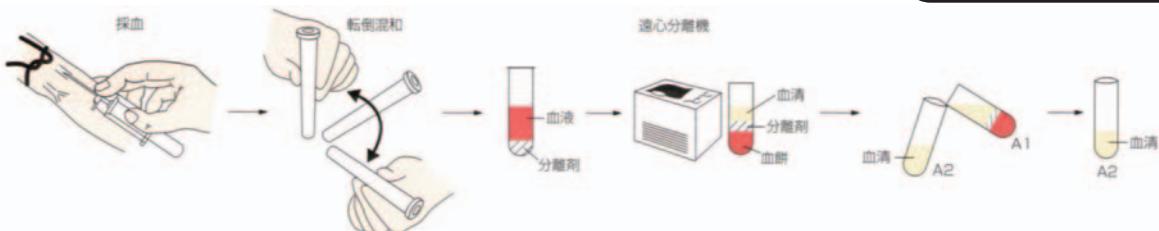
採血 50~100 μ L → 測定

時間短縮
微量採血
前処理不要
2段階の操作
省スペース

血清の検査

採血 2mL → 凝固5分 → 遠心5分 → 測定15分

採血量多い
前処理必要
4段階の操作
2台分のスペース必要



施設紹介

済生会長崎病院
検査部 北川いづみ技師長

Q2：小さなお子さんからの採血法を教えてください。

A2：生後6ヶ月未満の場合には踵から、生後6ヶ月以上の場合には耳朶から、それぞれ、毛細管を使用して50-100μL採血します。

Q3：1日の検体数はどのくらいですか？

A3：小さなお子さんの検体数は1日5-10検体です。外来患者と入院患者の比率は7:3です。いずれもCBCとCRPをセットで測定しています。

Q4：検体の測定手順を教えてください。

A4：患者さんをバーコードを使用して本人確認した後、毛細管で採血後微量採血管に移し替え、自動血球計数測定装置で測定し、検査結果をコンピューターへ入力しています。

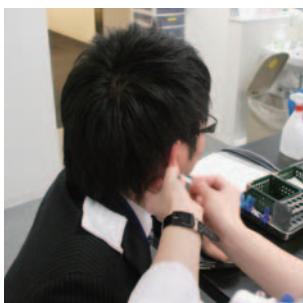
Q5：小児医療における地域での役割はどのようにになりますか？

A5：地域の診療所は午後6時に終了、夜間休日診療所は午後8時から開始なので、午後6時から8時までの2時間は、当院の小児科医が急患に対応しています。当検査室は365日、24時間運営していますので、誰でも簡単に操作できる装置は、とても助かります。

Q6：検査室のモットーは何ですか？

A6：小さなお子さんに恐怖を与えないことです。検査の必要な小さなお子さんには検査室まで来てもらい、検査技師が採血しています。小さなお子さんに恐怖を与えないように、採血しているところが見えないよう耳朶からの採血法をとっています。装置のまわりにおもちゃをおいたり、止血のためのシールにはキャラクターのシールを準備し、好きなシールを選んでもらうなど、できるだけ恐怖を与えないような工夫をすることを心がけています。

採血の模様



検査室の皆様



自動血球計数CRP測定装置
Microsemi LC-667CRP
製造販売届出番号:26B3X00002230004
Microsemi LC-667CRPは全血、検体吸引量18μL、約4分でCBCとCRPを同時に測定できます。

株式会社 堀場製作所 医用営業統括室 TEL(075)313-5736(直) FAX(075)313-8177 E-mail:me_info@horiba.co.jp

●東北[仙台](022)308-7890(代) ●東京(03)6206-4719(直) ●名古屋(052)936-5781(代) ●大阪(06)6390-8013(直) ●四国(087)867-4800(代) ●広島(082)288-4433(代) ●九州(092)472-5041(代)